

日本興業銀行本店(現・みずほコーポレート銀行本店)パース(AN.5305-62)

第12回村野藤吾建築設計図展

The 12th Togo Murano Architectural Drawing Exhibition

都市を形づくる村野藤吾のファサードデザイン

The Facade Designs of Togo Murano and the City

2013年2月4日(月)→5月6日(月)

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

開館時間:10時→17時(入館は16時30分まで)

休館日:日曜日・祝日・2月25日(月)・26日(火)・3月12日(火)・13日(水)

*ただし、4月28日(日)から5月6日(月)までの間は開館致します。

入館料:一般200円、大学生150円、高校生以下無料

主催:京都工芸繊維大学美術工芸資料館・村野藤吾の設計研究会

協力:京都工芸繊維大学大学院建築設計学専攻

Date: Mon.4 February - Mon.6 May 2013 Hours: 10:00 - 17:00 (admission until 16:30)

Closed: every Sunday, national holiday, Mon. 25 Feb., Tue. 26 Feb., Tue. 12 Mar. and Wed. 13 Mar. 2013 (except for Sun. 28 Apr. till Mon. 6 May)

Admission: Adults 200yen / Students(college, university) 150yen / Free for High School students and Below

Organizers: Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology / The Research Group for Architectural Drawings of Togo Murano

Cooperation: Department of Architectural Design, Graduate School of Kyoto Institute of Technology

第12回村野藤吾建築設計図展

The 12th Togo Murano Architectural Drawing Exhibition

都市を形づくる村野藤吾のファサードデザイン

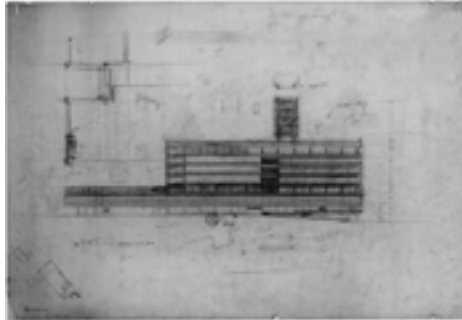
The Facade Designs of Togo Murano and the City

村野藤吾(1891-1984年)の建築家としての仕事を振り返るとき、その主軸をなすもの一つに、都市の街角の表情を形づくる建物として、オフィスビルや銀行、商業ビルや百貨店といった一連の作品群があることに気がつかされます。それらの建物は、その街のランドマーク的存在として、長い時間にわたって人々に親しまれてきたものです。またいずれの建物も、村野独自のデザインが施された、独特の雰囲気醸し出してもきました。

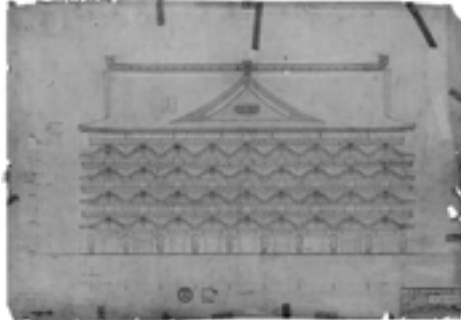
しかし、残念なことに、近年の激しい都市再開発の影響もあって、こうした高い価値をもつ村野の建築が次々と取り壊しの危機を迎えていることも事実です。すでに、初期の代表作であるそごう大阪本店(1935年)や、戦後の大作の一つである新ダイビル(1958年)などが取り壊されて姿を消し、大阪新歌舞伎座(1958年)も、現在閉鎖されたままの状態になっています。

こうした中、あらためて村野が都市に何をもちたのか、その独自のファサードデザインと形態操作にどのような意図が込められていたのか、を確認することは、建築が都市に何をできるのか、良好な都市景観はどのようにすれば守り育てることが可能なのか、など、建築と都市の明日を考える上での貴重な手がかりを与えてくれることでしょう。

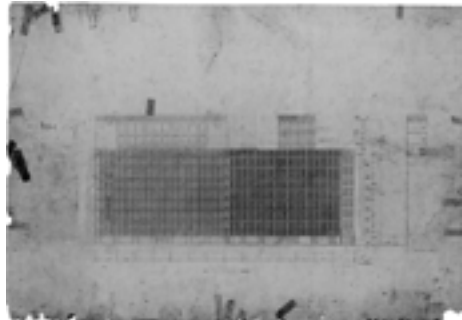
そこで、本展では、村野藤吾が都市の中で試みた大小21件の建築作品を取り上げて、端正で格調の高いデザインに込められた建築思想の在りかを確認してみたいと思います。現存する作品を撮影し下した現況写真も含め、原図や模型などの資料を通して、村野藤吾の世界の一端に触れていただければ幸いです。



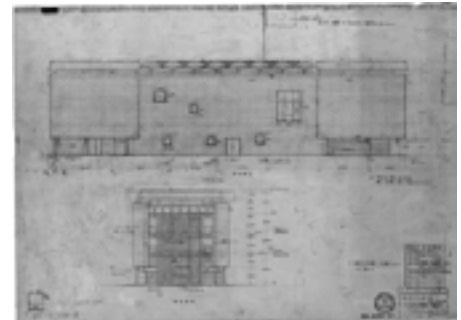
神戸新聞会館立面スケッチ (AN.5082-8)



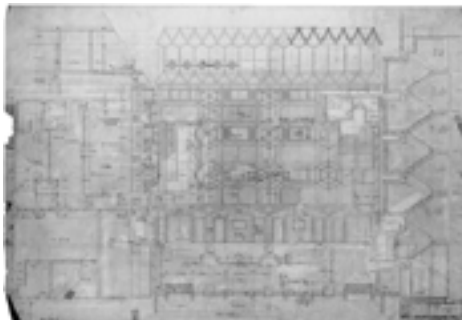
大阪新歌舞伎座立面図 (AN.4986-52)



丸栄本店立面図 (V-034-D-14)



日本生命日比谷ビル塔屋立面図 (AN.5062-21)



浪花組本社ビル詳細図 (X-125-20)



泉州銀行本店詳細図 (AN.5011-2)

○出品作品

森五商店東京支店(1931年)、そごう大阪本店*(1935年)、フジカワ画廊(現・フジカワビル/1953年)、丸栄本館(1953年)、近映会館*(1954年)、ドウトン(現・コムラードドウトン/1955年)、神戸新聞会館*(1956年)、読売会館・そごう東京店(現・ビックカメラ/1957年)、大阪新歌舞伎座(1958年)、泉州銀行本店(現・池田泉州銀行泉州営業部/1959年)、輸出繊維会館(1960年)、森田ビルディング(1962年)、日本生命日比谷ビル(日生劇場/1963年)、浪花組本社ビル(1964年)、千里南地区センタービル・千里市民センタービル(1964年・76年)、村野・森建築事務所(1966年)、大阪ビルヂング八重洲口(現・八重洲ダイビル/1967年)、高橋ビル本館(現・アールビル本館/1970年)、日本生命岡山駅前ビル(現・岡山タカシマヤ/1973年)、日本興業銀行本店(現・みずほコーポレート銀行本店/1974年)、村野・森建築事務所心齋橋事務所*(1984年)

*現存せず

◎関連企画

記念シンポジウム

「村野藤吾の都市へのまなざし」

2013年4月20日(土)14時→17時(開場13時30分)

会場: 京都工芸繊維大学60周年記念館

定員: 150名(当日先着順・参加費無料・申込不要)

<パネリスト>

塚本由晴(建築家・東京工業大学大学院准教授)

酒井一光(建築史家・大阪歴史博物館学芸員)

<司会>

松隈洋(京都工芸繊維大学美術工芸資料館教授)

□会場・お問合せ

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

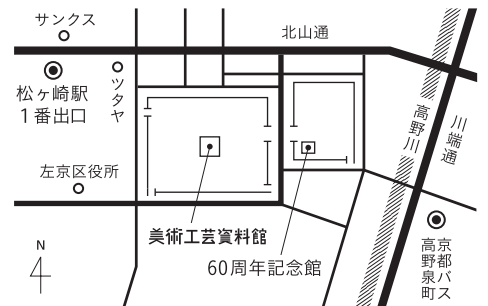
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

Hashigami-cho Matsugasaki Sakyo-ku Kyoto 606-8585

Tel:075-724-7924 Fax:075-724-7920

E-mail:siryokan@kit.ac.jp

URL:<http://www.museum.kit.ac.jp/>



▽アクセス

<地下鉄>

京都市営地下鉄烏丸線 松ヶ崎駅1番出口から
右(東)へ約400m、4つ目の信号を右(南)へ約180m

<バス>

京都バス高野泉町下車、馬橋を渡り左へ約200m

▽Access

<By Subway from Kyoto Station>

Take the "Kokusai Kaikan" bound Karasuma Line Subway to "Matsugasaki" Station, and walk east for 8 min.